

幸福な死を迎えるには～高校生に死を考える機会を～

社会班：小谷 優花

要約

コロナウイルスによる孤独死の増加や“死”への関心が高まる中、死に直面している人とその家族や周りの人にとって最も幸せな選択とは何なのか、そして延命治療の本当のあり方とはどのようなものなのか。厚生労働省の調査から、自分や周りの人の死について考える“きっかけ”を作ることが幸福な最期を意識するために重要ではないかと考えた。本研究では、高津高校2年生にアンケート調査を行い、高校生が人生の最終段階における医療への関心を持つような機会を得るにはどうしたらよいかを考察した。高校生がインターネットやテレビなどから情報を得ていることから、メディアを利用した教育を進めるべきであると考えた。また、事前に最終医療について家族と考え、意思決定することが大切であり、そのために事前指示書やエンディングノートの普及をすべきだと考えた。

Abstract

What is the happiest choice for people who face deaths and their families.

And what is the real life-prolonging treatment?

A study by the Ministry of Health, I think it is important to create a cause of thinking for the death.

This study shows how to get the opportunity for the high school students to take a chance to be interested in the life-prolonging treatment by the questionnaire survey to the second year of KOZU high school.

I think that Japanese should use media education to teach high school students the life-prolonging treatment.

It is also important to think decisions about life-prolonging treatment with the family in advance, and that is why we should spread the instructions and the ending notebooks.

1. 序論

もともと死について興味があり、死後の世界や死に方について考えることがよくあった。また、コロナウイルスによる突然の死において、どうしたら当人とその家族は後悔しなかったのだろうか、“人生の最期”を迎えるときに“家で”もしくは“病院で”、“一人で”または“大切な人に看取られて”などとたくさんの選択があるため、どの選択が一番幸せなのかを知るために研究を始めた。

本研究では人生の最終段階における医療の最も幸せな選択とは何か、延命治療の本当のあり

方とは何かを考察した。

2. 研究手法

① 先行研究の分析

先行研究の分析として、【厚生労働省（平成29年度 人生の最終段階における医療に関する意識調査）】を使用した。この調査は平成4年以降、おおむね5年おきに実施されており、本研究では直近の平成29年度のものを使用した。ここでは、医療に携わっていない20歳以上の日本国民を一般国民と表しており、本研究でもこの一般国民に焦点を当てて分析した。

② 高校2年生へのアンケート調査

①の分析より、一般国民は自分では最終医療について考えるが、家族や周囲の人と話すためのきっかけがない。と考えていると分析した。高校生も同じように思っているのではないか。きっかけとなる機会が欲しいのではないかと考え、高津高校2年生360人にアンケート調査を実施した。（P7～8）

3. 結果

① 先行研究の分析

“人生の最終医療について考えたことがある。”という質問には、はい、と回答した人は59.3%だが、“家族と最終医療について話したことがある。”という質問ではいいえ、と回答した人（自分では考えたことがあるが、家族と話したことはない人）が55.1%で過半数を占めていた。（資料1）また、家族と話し合わない理由としては、必要性がない、知識がなく、なにを話したらよいかわからない、話し合いたくない、とあり、特にきっかけがないというのが50%を占めていた。（資料2）“家族と最終医療について話したことがある。”という質問には、はい、と答えた人の話し合うことになったきっかけは、テレビやインターネットなどのメディアから情報を得たとき、医療関係者などから説明や相談の機会を与えられたとき、自分の病気、家族の死や病気などがあった。

② アンケート調査の結果と一般国民との比較

“私は人生の最終段階における医療について考えたことがある。”という質問には、はい、と答えた人が65.3%、いいえと答えた人が34.7%だった。（資料3）一般国民と比べると少しだけはいと答えた人が多いが、そこまで大きな差はなかった。（資料4）

“私は人生の最終段階における医療について家族と話したことがある。”という質問には、はい、と答えた人は18%、いいえ、と答えた人は82%だった。（資料5）一般国民と比べるとはい、と答えた高校2年生は一般国民の半分以下であった。（資料6）

先ほど、“家族と話し合ったことがある。”と答えた人の中では、はい、と答えた人が45.8%、いいえ、と答えた人が54.2%だった。（資料7）きっかけは、身内の死や病気（28.2%）、医療関係者などから説明や相談の機会を得たとき（9%）、そしてメディアから情報を得たとき（46.2%）が一番多く、その他（16.6%）の中でも、“映画やドラマを見たとき”“社会の授業を受けたとき”という回答が多くみられた。（資料8）

先ほど“家族と話したことがない。”と答えた人の理由では、“話し合いたくない”（8.3%）必要性がない（23.2%）知識がなく何を話せばよいかわからない（2.7%）とある中、“きっかけがない”という回答が過半数を占めていた。（資料9）

4. 考察

①人生の最終段階における医療について

一般国民も高校2年生も人生の最終段階における医療について自分では考えているという人の割合はあまり変わらなかったが、家族と話している人の割合は一般国民のほうが高校生のおよそ2倍であり、高校生が死に関して家族と話すことへの抵抗が見受けられる。また、高校生はテレビやインターネットなどから情報を得ている人が多く、医療ドラマや、社会の授業から知識を得た、きっかけができたという人が多く見られた。人生の最終段階における医療について自分では考えているが、家族と話し合わない理由はとして“きっかけがない”というのが一般国民も高校2年生も半数以上であり、“話し合う必要性がない”と考えている人も多かった。

②延命治療について

延命治療とは人が治療を受けなければ生きられない状態になった際に施す治療行為のことである。延命治療の認知度を計るために先ほどのアンケート調査で“延命治療とは何か知っていますか。”という質問をした結果、はい、と答えた人は72.6%、いいえと答えた人は27.4%だった。（資料10）予想していたよりも延命治療の認知度は高く、テレビやインターネットによる影響だと考えられる。

また、延命治療については様々な考え方があ

る。「たとえば家族であっても、延命治療をしないという決断を下すのは「人殺し」に当たるのではないか。親の人生に大きく関わることを自分が「決める」というのは、親の人生の責任を負わされることになる気がして嫌だ。」（後閑愛実：後悔しない死の迎え方）と考え、一分一秒でもいっしょにいるために最大限の延命治療を選択する人や、

「病院のベッドに縛り付けられ、命をのばすためだけの「延命治療」を受けて死ぬことは本当に幸せなのか。」（たくきよしみつ：医者には絶対に書けない幸せな死に方）と過度な延命治療に疑問を持ち、QOLを第一に考え、延命治療を望まない人もいる。

私は延命治療に対し、以下のように考えた。

まず、延命治療の基準はひとそれぞれであり、人工呼吸器を付けたら、点滴で栄養を摂取するようになったら、などどのタイミングをもって延命治療を位置付けるかは非常に難しいため、本当のあり方を決定することはできない。また、延命治療をするかしないかで幸福度は左右されないが、過度な治療は一般的には1番理想的である老衰からかけはなれてしまうため、あまり有効であるとはいえない。延命治療のあり方を考えるのではなく、延命治療について知識を得て、死を迎える本人とどこまでの延命治療を受けたいのか事前に相談し、決めておくことが一番大切である。

③事前指示書・エンディングノートについて

先ほど述べたように死を迎える本人とどこまでの延命治療を受けたいのか事前に相談し、決めておくために事前指示書・エンディングノートを活用が効果的だと考えられる。

持参指示書とはある患者や健常な人が将来判断能力を失った際、自分に行われる医療行為に対する意向を前もって意思表示するための文書であり、法的拘束力を持つ。何度も書き直すことができ、事前指示書の内容と家族の意思が異なる場合は基本的には本人の意思が優先される。日本では倫理的な観点、死について話題にすることを避けるという文化的な観点からまだ十分に認知されておらず、平成29年では作成率約8.1%だった。

エンディングノートとは自分が死んだ後または死の間際に当たって家族に自分の思いを伝えるものであり、法的拘束力を持たないため自由に日記のように書くことができる。最近では若い世代に向けたかわいいものや、スマートフォンのアプリなどでも書くことができる。

事前指示書・エンディングノートの認知度を計るために先ほどのアンケート調査で“事前指示書・エンディングノートについてどう考えますか。”と質問したところ賛成が31.8%、反対が0.2%、どちらともいえないが14.9%、わからないと答えた人が過半数の53.1%で、(資料11)一般国民との比較でもまだまだ高校生の認知度が低いといえる。(資料12)

5. 結果

“人の死”というのは人生で必ず遭遇することであるため、その時に後悔しないよう、幸せな最期を迎えることができるように人生の最終段階における医療についての正しい知識を得る必要がある。したがって高校生の段階から、「死への準備教育」が必要であり、“インターネットやテレビ、ドラマから情報を得る人が多い。”という結果から、メディアを積極的に使った教育を進めるべきであると考えた。

また、延命治療をするかしないかで幸福度は左右されない。

大切なのは事前に死を迎える人とその周りの人が人生の最終段階における医療について考え、意思決定することであり、そのためには事前指示書の作成が重要となるが、まだそれらの作成率や認知度が低いため、事前指示書よりも書きやすく、若い世代の人にも考えやすいエンディングノートを普及させるべきであると考えた。

今後の展望として、様々な世代や国における人生の最終段階における医療についての考え方を調べ、高校生への「死への準備教育」について具体的な内容を定め推進する。

6. 参考文献

後閑愛実 (2018年12月) 後悔しない死の迎え方. ダイヤモンド社

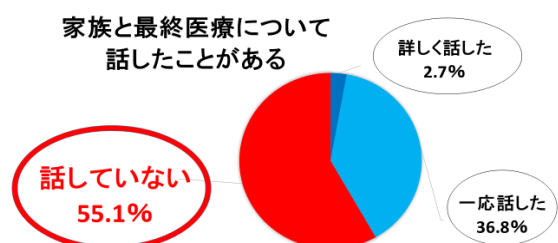
たくきよしみつ (2018年1月) 医者には絶対にかけていけない幸せな死に方. 講談社

厚生労働省 「平成29年度人生の最終段階における医療に関する意識調査」

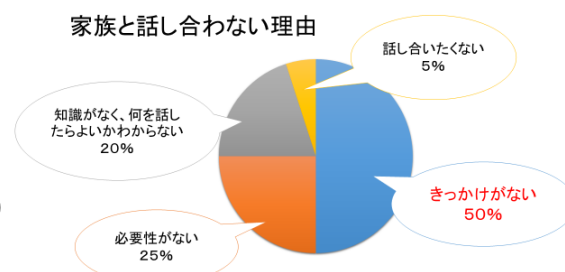
公益財団法人長寿科学振興財団健康長寿ネット

資料・アンケート用紙

資料 1

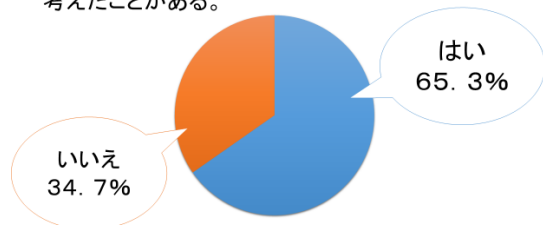


資料 2



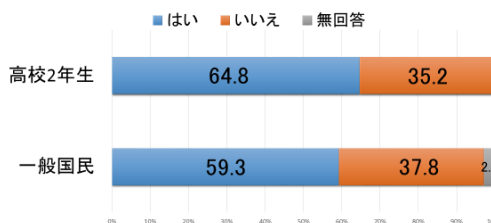
資料 3

1. 私は人生の最終段階における医療について考えたことがある。



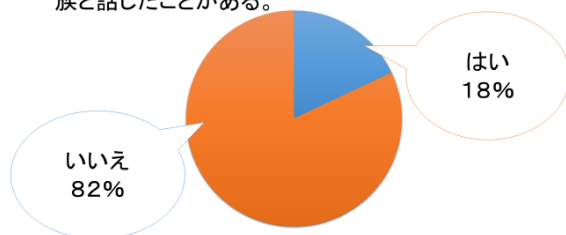
資料 4

人生の最終段階における医療について考えたことがある。



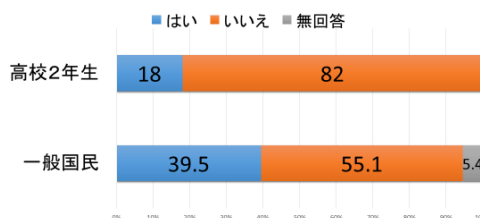
資料 5

2. 私は人生の最終段階における医療について家族と話したことがある。



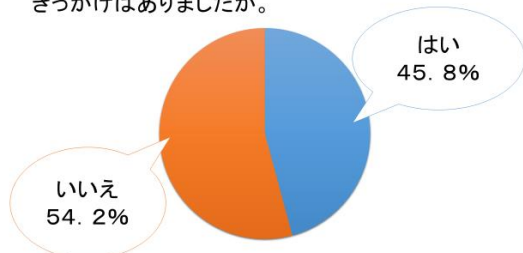
資料 6

人生の最終段階における医療について家族と話したことがある



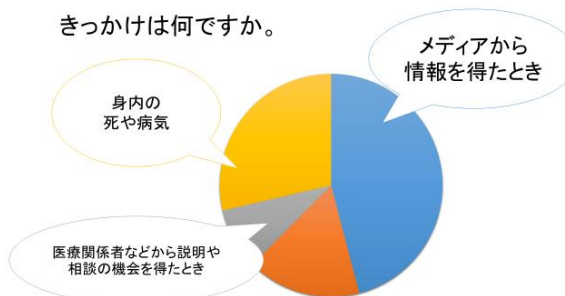
資料 7

きっかけはありましたか。

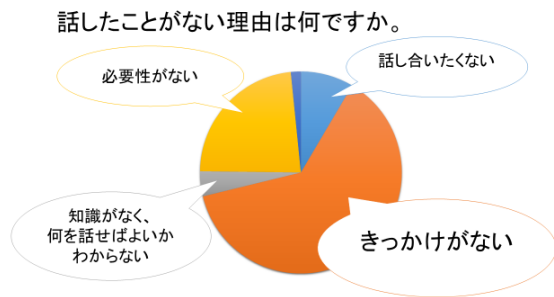


資料 8

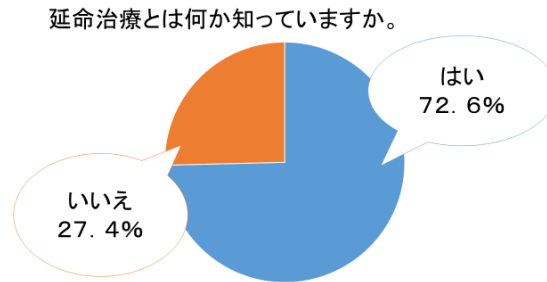
きっかけは何ですか。



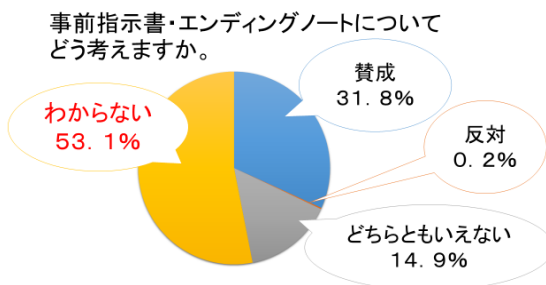
資料 9



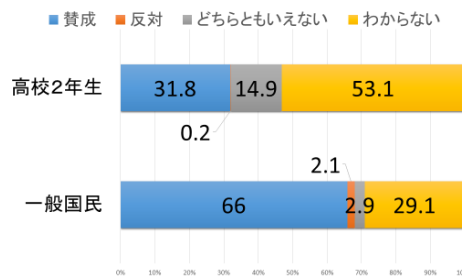
資料 10



資料 11



資料 12



アンケート協力をお願い

LCII 社会班（幸せとを感じる死に方とは）では、「幸せを感じる死に方とは」というテーマを延命治療などの観点から研究しています。そこで、高津高校生の考えをお聞きしたいと思います。QRコード、もしくはこの紙で当てはまるものに○をつけて回答してください。紙で回答する人は2-2小谷に提出してください。ご協力よろしく申し上げます。質問にはすべて自分自身のことについて答えてください。

1. 私は人生の最終段階における医療について考えたことがある。はい・いいえ
 （最期は家族に看取られて死にたい、施設に入りたい、一人で死にたい、など）

2. 私は人生の最終段階における医療について家族と話したことがある。

はい・いいえ

はい と答えた人に質問です。

きっかけはありましたか。はい・いいえ

そのきっかけとは何ですか

1 身内の死や病気

2 メディアから情報を得たとき

3 医療関係者

などから説明や相談の機会を得たとき

4 その他

いいえ と答えた人に質問です。

話したことがない理由は何ですか

1 話し合いたくない

2 必要性がない

3 きっかけがない

4 知識がなく、何を話せばよいかわからない

5 その他

2. 人生の最終段階における医療について考える、家族と話すためのきっかけとなる教育や機会はほしいですか。はい・いいえ

3. 延命治療とは何か知っていますか。はい・いいえ

はい と答えた人へ

延命治療についてどこで知識を得ましたか

4. 事前指示書、エンディングノートについてどう考えますか また、その理由を回答してください
1 賛成 2 反対 3 どちらともいえない 4 知らない
理由()

QR コード



ご協力ありがとうございました。